

## 教学担当常務理事交渉を開催しました。

教育の質向上に資する S/T 比の改善のための教員組織整備計画について、年度内の方針提起を確認しました。

既存教学の向上が最優先課題であることを確認し、新キャンパス構想がそれを阻害してはならないことを共通認識としました。

9月22日（水）に新キャンパス課題に関わる交渉を総長出席のもと開催  
することを確認しました。

9月15日（水）19時より朱雀601西会議室にて、教学担当常務理事交渉を開催しました。組合からは南野書記長をはじめ組合四役、執行委員、職場委員が参加し、理事会側からは中村教学担当常務理事、石井教学部長、春日井教学部長、大島教学事務部長、西川総務部長が出席しました。

組合は、今春闘にて、教育の質向上に資する S/T 比の改善について要求し、2回の団体交渉と教学部との拡大事務折衝を重ね、教員組織整備計画の具体化を求めました。また、7月末より提起されている新キャンパスの課題について、教学課題との関連が深く、教学課題を議論してこそその新キャンパス議論であるとの主張を行ないました。下記に当日の議論について概略をご紹介します。

### 1. 高等教育をめぐる情勢と教学改革ガイドライン、学生実態について

#### [南野書記長]

具体的な教学議論に入る前に、その前提となる高等教育をめぐる情勢、教学改革ガイドラインが提起された背景、学生実態について議論したい。

日本学術会議の提案について、総合的な学力を身に付けさせる必要性和科学と技術を総合的にとらえることの必要性が提起されている。

単に知識を身につけるのではなく、主体的に考え、新しい問題意識をもって、学問を切り開く主体的な力をどう身に付けさせるか、小集団教育が重要、共同体作りが大切である。

#### [中村教担理事]

今日の交渉は教学の実務責任者としての発言をすることを理解してほしい。

分野別の質保証について、今後3年をかけ、学士力の中身を立命館として議論する必要がある。

高等教育の負担について、公財政を回してもよいと思われる大学をつくる必要がある。

現行の教員組織整備計画の根拠は現行の中期計画である。しかし、中期計画は正当性がないといわれ、手続きに問題があるといわれ、必ずしも合意があるものではなかった。

計画を担う教員組織整備計画であるはずが、中期計画それ自身の正当性そのものが疑われたので、現行の教員組織整備計画は質を十分に含んだものではなく、量的な整備計画として進めざるを得なかった。

現行教員組織整備計画の反省を踏まえ、どこに向かう、何のための、どういう質的变化を担うことを目的とした計画なのか議論し、高等教育政策を加味し、立命館のプレゼンスを強調するものにすることが大前提である。

GPなどのプロジェクト方式での政策は、安定的な教学を運用する上で財政的な保証や採択後の大学への負担、マネジメントの人的体制など、課題を残して動いてきた。進んだ面もあるが反省すべき点もある。

[ 南野書記長 ]

新しい分野を切り開くとき、人的体制等が最低限の整備であったことの矛盾があった。

どういった学園、キャンパスを作るのか、どう定員管理をするのか、新しいプログラムや分野を切り開くことがそのことがどういう課題と問題を持つのか、見通しをきちんとマネジメントする体制が取れていなかったことがいまの厳しい状況を作り出している原因ではないか。

[ 中村教担理事 ]

教員体制や教育を充実させる前に、学費を値上げざるを得なかったことは反省し、大きな転換の方針を持ちたい。

批判はあるが、学園の規模はいったん現行を維持することにした。その中で学部・研究科の最適化、つまり、増減はありうるとしている。

[ 南野書記長 ]

従来のように、教学の条件を改善するために学費の値上げが条件となること、そういった考え方を持たないとすると、財政構造の大きな変革を求めることになる。学部規模の最適化についても学部教学を最大限発揮できる学部の規模を議論するという意味か。

[ 中村教担理事 ]

その通りである。また、公財政の支援を得られる大学にするためには、市民社会に生きる人間としての市民性や社会性を強調する必要があり、それが立命館的な学士力だろう。それは議論したい。

社会に対してのプレゼンス、学士力を見せるためには定量的な評価がやはりいる。説明する責任がある。そのために教員体制がいるという議論をしたい。

[ 南野書記長 ]

学園の適正規模も論点にすえられるべきではないか。そういう理解でいいか。

[ 中村教担理事 ]

いったん第一委員会で仮定としておいた。キャンパス創造の議論や総長選挙もあり、そのような議論を通じて、どこかの段階でそういう議論も浮上するだろう。しかし、R2020以降の立命の充実を阻害してはならず、不確定要素がいくつかあり、そこまでシャープに見通せない。

## 2. 教員組織整備計画とS/T比の改善について

[ 南野書記長 ]

第2回団交で教員組織整備計画について2010年度前倒し実施と再構築、教学改革・教学改革論議を通じて教員像を含むS/T比の改善が提起されたと考えているが、既存教学の充実が大事なポイントであると考えている。

どういった指標で質強化に資するものとしてS/T比の改善を図るのか、変数といわれたがその柱については、事務折衝で4年間を一貫する小集団教育、初年次教育、教養教育であるといわれた。小集団、1回生の基礎演習の充実化が重要な柱であると聞いているが、具体的にどういう形で手当てをしようとしているのか。

[ 中村教担理事 ]

教学部でも全体で議論していないので、その前提で聞いてほしい。

新キャンパス創造の議論があるが、理事会の中での合意を得るために複数キャンパス下を前提とした教職員体制、人件費について財政シミュレーションをかけた。

新キャンパスがあろうが無かろうが、もともとガイドラインの議論を先行してきたので、年々積み上げてきたガイドラインを実行するために必要な教員体制を担保するため、この政策が必要だったと理解してほしい。

7月に新キャンパス創造の議論を加味したので、余計に複数キャンパス体制での教員体制について、上積みする要素になったと理解してほしい。

最終的には中期計画が策定されて、それを担う教員体制ということで理事会の下に教員組織整備計画委員会を作る。前倒し再構築なので、今年度中に策定したい。

全ての学部・研究科の改善につながるようにS/T比の改善に着手したい。しかし、各学部研究科に濃淡や力点の置き方、分野特性があるので、一律ではなく、質強化に向かうS/T比の改善政策を議論したい。

大規模社系学部というのは、大変努力してもらってきた。S/T比改善に着手したい。抜本的な見直しをかけた

文学部は卒業研究を必修にしているが、認証評価でも指摘がある。40名以下にどうするかということがあ  
る。

国際、政策は加配しているが国際インスティテュートの改革とも関わりながら、どう意義付けするか、再構築  
の中に入れたい

理系は改革が2012年にはっきりしているので、大学院生数をS/T比にどう入れるか、検討したい。

独立研究科についても所属・配属の考え方を学部で優位になる方向で改めることも検討したい。

全学横断的な教育は重要で、教養教育について体制の強化をかなり強化したい。これは教養の専任率を高めた  
いという願いがある。

3キャンパスで担いうとなった場合、教養貢献率を前提にした加配がありえるか考えたい。いくつかの修正  
と目標を置きながらやるので、相当の数の加配になる。

教職教育も3キャンパスに対応させたい。いま、設置基準の最低でやっている。教職分野は進路として大きい  
ので、各キャンパスで対応したい。

G30だけではないが留学生が増えているので、日本語の体制も整えたい。

機構の教員も力を発揮していただける分野の学部・研究科に所属として活躍しつつ、全学の貢献もしていただ  
き、ともに学部貢献ということで再配置を加味したい。

特別招聘は枠外だが、人件費としては同じなので、学部で直接役立つような定数化が出来ないか。特任教授も  
教養教育に貢献していただき、体制強化をして行きたい。

キャンパス創造の議論が収束を見た段階で提案したい。しかし、キャンパス課題がどうなるうともガイドライ  
ンの実効と教育の質強化としてやるべき課題である。

総体として質強化に向かっていく。それを議論しながら見えてくる数字があるはずである。

[南野書記長]

社系学部にはS/T比60名ところもある。それを仮に50名と置いたときに単純に試算すると法、経済、経営  
だけで80名ぐらいの増員が必要だ。それ以上に指標を加味すると大きな規模の整備になる。また、未充足に  
ついては、どう考えるか。

大学院を含めたS/T比を考えること大事なポイントだ、大学院生の未充足があるがについて、これは定員ベ  
ースでS/T比を考えることになるか。

[中村教担理事]

現行の未充足があるが、学部の努力によってギリギリでやっていただいているのかもしれない。精密に見て行  
きたい。埋まっていないものは埋めていただきたいと考える。

大学院について、ロジックを考えたい。今は充足率を係数にしている。現行の方針は増やさないと定員をつ  
けないという発想である。これをなくしたい。

[朝尾職場委員]

数字から見えない中身も検討する必要があると思う。現行計画で初修外国語の定員が減っており、担当者がい  
ない。見直す必要がある。英語についても数字に表れない環境の弱さや教員の負担を解消する必要がある。外  
国語部会で議論を進めていただいているがその議論を聞いて進めていただきたい。

各学部に割り振っても専門との関係や受講する学生数もある。研究させてほしい。

### 3. 新キャンパス課題について

[南野書記長]

複数キャンパスの話があったが、いまの議論で相当大きな教学的な転換を進めていくという決意をもたれてい  
ると理解した。そうすると、複数キャンパス、茨木のキャンパスとの関係で、本当に既存教学の改善、教育の  
質向上が財政的にも人的体制的にも両立しうることかということが問われる。考えを聞きたい。

[中村教担理事]

7月の文書を提案したのは決めたわけではない。検討に値する選択肢の一つとして全学に検討を依頼した。常  
任理事会、特別委員会の一員として議論するが、教学の責任者として教学の発展の阻害になってはいけないと  
考える。

さらにいままでとは違うやり方で教学政策をやって行きたいと考えており、それを邪魔されては困るというこ  
とを強調しながら発言してきているつもりだ。

[南野書記長]

新キャンパスの説明会のときにもいまの教学上の課題が全て解決できるものにならないといけなと発言をされた。本来、教学的な議論があって、課題は何なのか、どう解決していくのか、その中で新しいキャンパスが必要になるとか、キャンパスはそれを解決するためにどういう性格のもでなければならぬのか、どういう計画なのかという議論が積みあがっていくものだと考える。現状はそのあたりの議論が十分に出来ていないと考える。

財政上の問題として、単純な試算をして数十人、百数十人の増員、場合によっては学生定員を減らすことでS/T比を改善するという選択肢もありえると思う。そういったことも考え、2020年以降も持続可能な財政が本当に出来るのかということに危惧している。

これまで、理工の展開、経済経営の移転のときも文理融合というコンセプトをきちんと定めて議論がされてきた、それはいま、どこにあるのか見えてこない。

[中村教担理事]

7月文書以降、いろんな委員会で発言してきたのは、山ノ内の可能性である。徹底した議論をすべきと提案をしてきた。新聞報道もあり、それが追加資料に反映された。衣笠キャンパスの狭隘化は、比較的論点が共有化されていると思う。第1委員会でもそのような提案をしてきたつもりである。

第1委員会で京都キャンパス構想も議論があって、市街地に埋め込まれたキャンパスもありうるのではないかと、  
という発言もしてきたので、山ノ内の可能性の議論も意図してやるべきではないかと理事会で発言してきた。  
それが追加的説明文書になって現れている。

わたしとしては、この間、信頼回復に向けて努力してきたつもりであるが、決め方、議論の収束のさせ方がまた学内の不対立を大きくする、それは一方的に理事会の責任があることになると思うが、これを抱えて動き出すということは、慎重であるべきであると考えている。

議論としては大阪もあるかもしれないが、時間のかけ方だったり、中身作りだったり、キャンパスコンセプトだったりするかもしれない、そういうことがあればひとつ可能性のあるチョイスとして浮かび上がる、それも大事であると発言もしながら決め方についても是非一定の議論もして行きたいと考えている。

[南野書記長]

今回の判断、高いレベルでの全学合意といったときに何を以て全学合意というのか、聞きたい。

[中村教担理事]

先ほど言ったように信頼回復の取り組みの溝が深まるようであればその決め方自身が問題だろうと思う。それが  
高いか低い、大事な要素だ。

[磯崎書記次長]

高いか低いかの抽象的な話ではなく、総長が言われたのはこのことだし、総合企画の説明会で明言されたのは、各学部部局でこれから議論するときに合意いただけないままで実施できないということだ。全学合意というものはそういうことだ。

教授会で議論をされ、かなり詰めた議論をされていると聞いており、具体的な見解をまとめられているところもあり、このレベルでもどう考えるのかは重く、それが全学合意である。どの学部が行くにしても全学で支えようと、全学で確認しようということが全学合意であり、信頼回復、不信不和の解消ということも来週しっかり議論したい。

[中村教担理事]

組合の主張とこういう発言をしたということを常任理事会に伝える。決め方が大事である。9月末の迎え方についても大事である。教学議論が阻害されてはいけない、ということも強調して発言したい。皆さんの思いも伝え、論点の継承をしたい。

[南野書記長]

今日の教学の議論は立命館の最も大事な課題だと考えており、これをやりきることが重要であり、その関わりでキャンパスの議論が大事であるとして議論させていただいた。教育の改善、質の向上のために、日程ありきの議論ではなく、教学の議論を詰めきることが立命館にとって大事だと改めて言及したい。

以上